

佐久市埋蔵文化財調査報告書第31集

TUTUMURA

筒村遺跡 A

YAMABOUSHI

山法師遺跡 A

長野県佐久市大字根岸筒村遺跡 A・山法師遺跡 A 調査報告書

1994. 3

佐久建設事務所

佐久市教育委員会

# 例 言

1 本書は、平成3年度・平成4年度に発掘調査を実施した長野県佐久市大字根岸に所在する筒村遺跡A及び山法師遺跡Aの発掘調査報告書である。整理作業・報告書刊行は、平成5年度に行った。

2 本調査は一級河川中沢川河川局部改良事業に関わり、佐久建設事務所から委託を受け、佐久市教育委員会が実施した。

## 3 遺跡の所在地

筒村遺跡A 佐久市大字根岸816他  
山法師遺跡A 佐久市大字根岸793-1他

## 4 調査期間および面積

### 筒村遺跡A

試掘調査——平成2年12月17日～2年12月25日 面積——150㎡  
発掘調査——平成3年10月8日～3年10月30日 面積——480㎡  
整理調査——平成4年2月3日～4年2月28日、平成5年8月2日～8月29日  
平成6年1月10日～3月18日

### 山法師遺跡A

試掘調査——平成3年12月11日～3年12月12日 面積——約250㎡  
発掘調査——平成4年7月2日～4年7月31日 面積——約546㎡  
整理調査——平成4年10月12日～12月24日、平成5年8月2日～8月29日  
平成6年1月10日～3月18日

5 筒村遺跡Aと筒村遺跡Bの遺構名称は、通し番号を付した。山法師遺跡Aと山法師遺跡Bも同様である。

6 本書の掲載図作成は、小林よしみ・柳沢豊志子が担当し、林 幸彦が執筆・編集した。

7 本書および関係資料等は、佐久市教育委員会で保管している。

# 目 次

## 例言

### I 調査の概要

- 1 調査の経緯と経過…………… 1
- 2 調査の体制…………… 1
- 3 調査の概要…………… 1

### II 筒村遺跡A

- 1 柱穴群および溝状遺構…………… 5
- 2 土 坑
  - 1) D19号土坑…………… 5
- 3 遺物集中地点出土遺物、表採遺物…………… 6

### III 山法師遺跡A

- 1 掘立柱建物址
  - 1) F1号掘立柱建物址……………10
  - 2) F2号掘立柱建物址……………10

## 図版

- |     |                                  |     |                             |
|-----|----------------------------------|-----|-----------------------------|
| 図版一 | 山法師遺跡の航空写真                       | 図版六 | 1 山法師遺跡A F3号掘立柱建物址          |
| 図版二 | 山法師遺跡の航空写真                       |     | 2 山法師遺跡A F4号掘立柱建物址          |
| 図版三 | 1 筒村遺跡A M1号溝状遺構・柱穴群              | 図版七 | 1 山法師遺跡A、山法師遺跡B III<br>地区近景 |
|     | 2 筒村遺跡A 調査スナップ                   |     | 2 筒村遺跡A 近景                  |
| 図版四 | 1 筒村遺跡A D19号土坑出土、遺物<br>集中地点6出土土器 | 図版八 | 調査スナップ                      |
|     | 2 筒村遺跡A 表採土器                     |     |                             |
| 図版五 | 1・2 筒村遺跡A 石器                     |     |                             |
|     | 3～5 遺物集中地点6出土土器                  |     |                             |
|     | 6 山法師遺跡遠景                        |     |                             |

# I 調査の概要

## 1 調査の経緯と経過

筒村遺跡および山法師遺跡は、佐久市西部の中沢川右岸にあって標高708m～722mを測る。縄文時代から平安時代にかけての遺跡として知られていた。平成2年、日向地区団体営土地改良総合整備事業が計画されたため、事業の開始される前年に試掘調査し保護協議を行うこととなった。試掘調査の結果、両遺跡とも遺構の存在が確認され協議がもたれたが、遺跡の破壊が余儀ない事態となった。日向地区団体営土地改良総合整備事業施行予定地を筒村遺跡Bおよび山法師遺跡Bとし、佐久建設事務所による中沢川の改修工事予定地を筒村遺跡Aおよび山法師遺跡Aと呼称し、平成3年度に筒村遺跡の、平成4年度に山法師遺跡の発掘調査を実施した。

## 2 調査体制

◎発掘調査受託者 教育長 大井 季夫

事務局（平成5年度）

教育次長 奥原秀男 埋蔵文化財課長 上原正秀 管理係長 小林泰子

埋蔵文化財係長 草間芳行 埋蔵文化財係 高村博文 林 幸彦 三石宗一 須藤隆司

小林真寿 羽毛田卓也 富沢一明 上原 学

調査担当者 林 幸彦 調査主任 佐々木宗昭 調査副主任 堺 益子

調査員 浅沼ノブ江 荒井ふみ子 荒井豊平 今井みさ子 市川愛子 市川チイ子

岩下吉代 岩下とも子 岩下文子 岩下友子 岩下なみよ 遠藤しづか

小田川 栄 金森治代 工藤さだ 工藤しず子 小林立江 小林まさ子

小林よしみ 小林陽子 重田つる子 重田まさ江 重田よし子 重田 優

関口美咲 武田千里 武田まつ子 高橋ふみ 樋田咲枝 並木ことみ

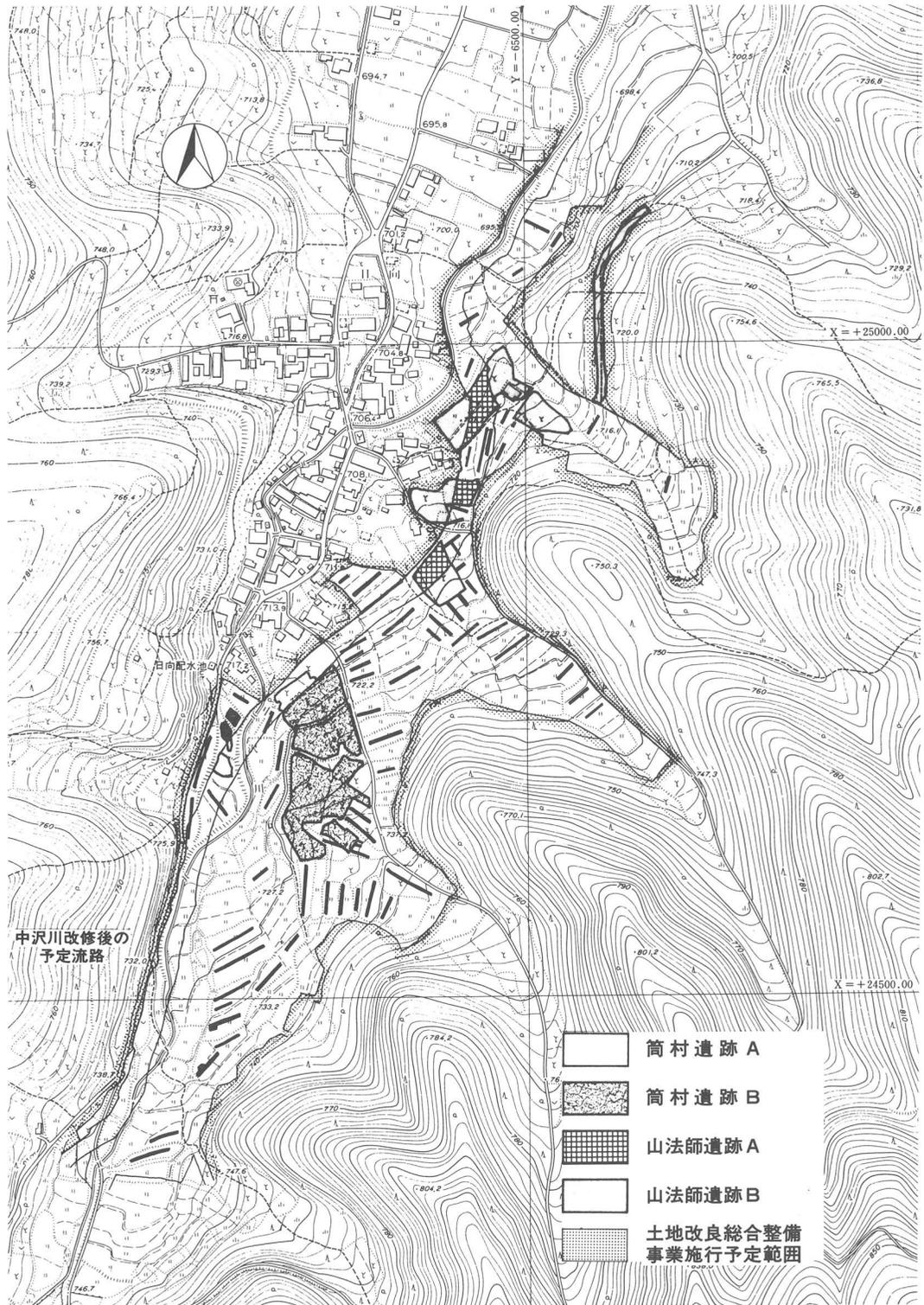
羽毛田香里 橋詰勝子 橋詰けさよ 橋詰信子 細萱ミスズ 堀込成子

堀籠 因 柳沢豊志子 山崎平八郎

## 3 調査の概要

筒村遺跡A 土坑1基、柱穴群、溝状遺構

山法師遺跡A 掘立柱建物址2棟



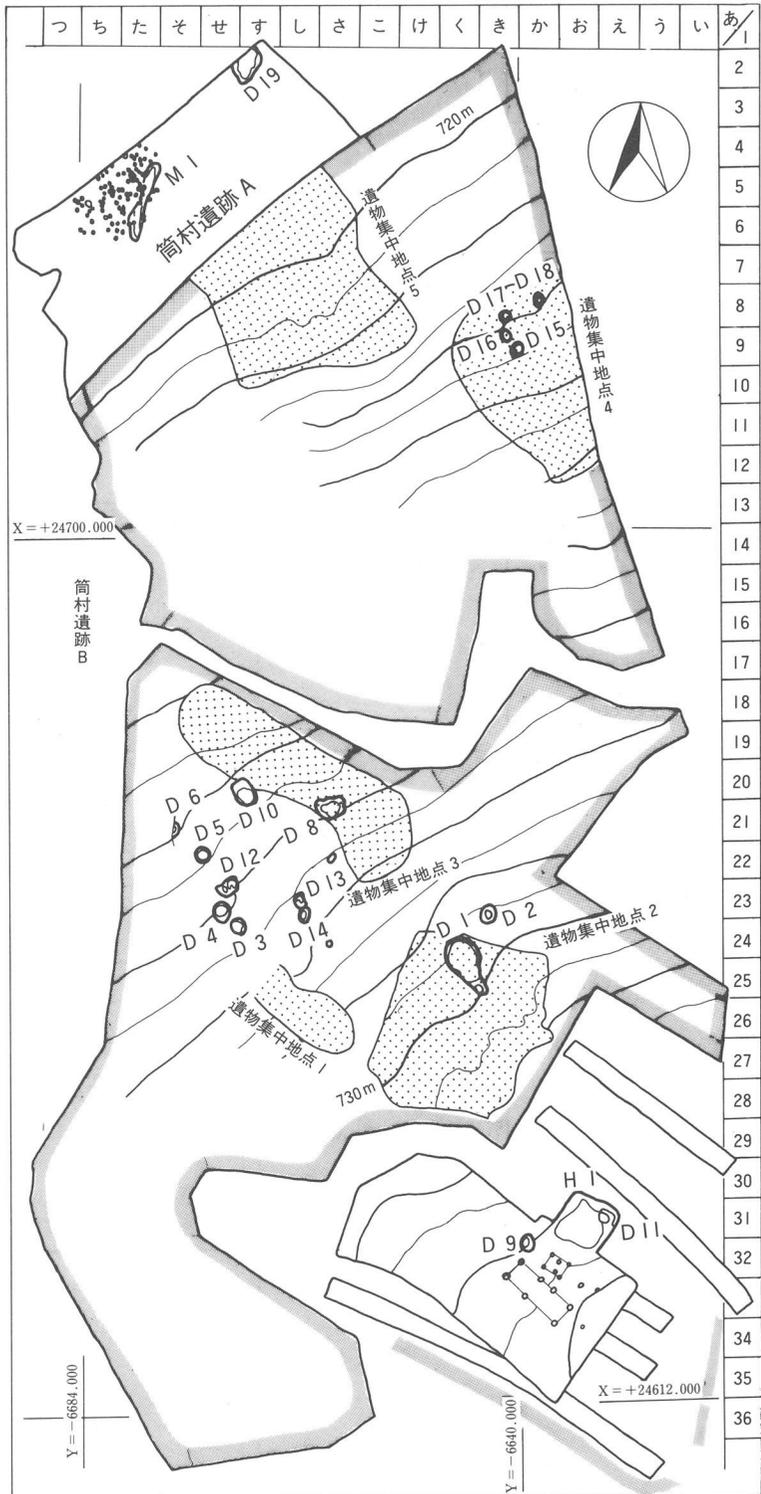
第1図 筒村遺跡・山法師遺跡調査区およびトレンチ設定図 (1:5,000)

## II 筒村遺跡 A

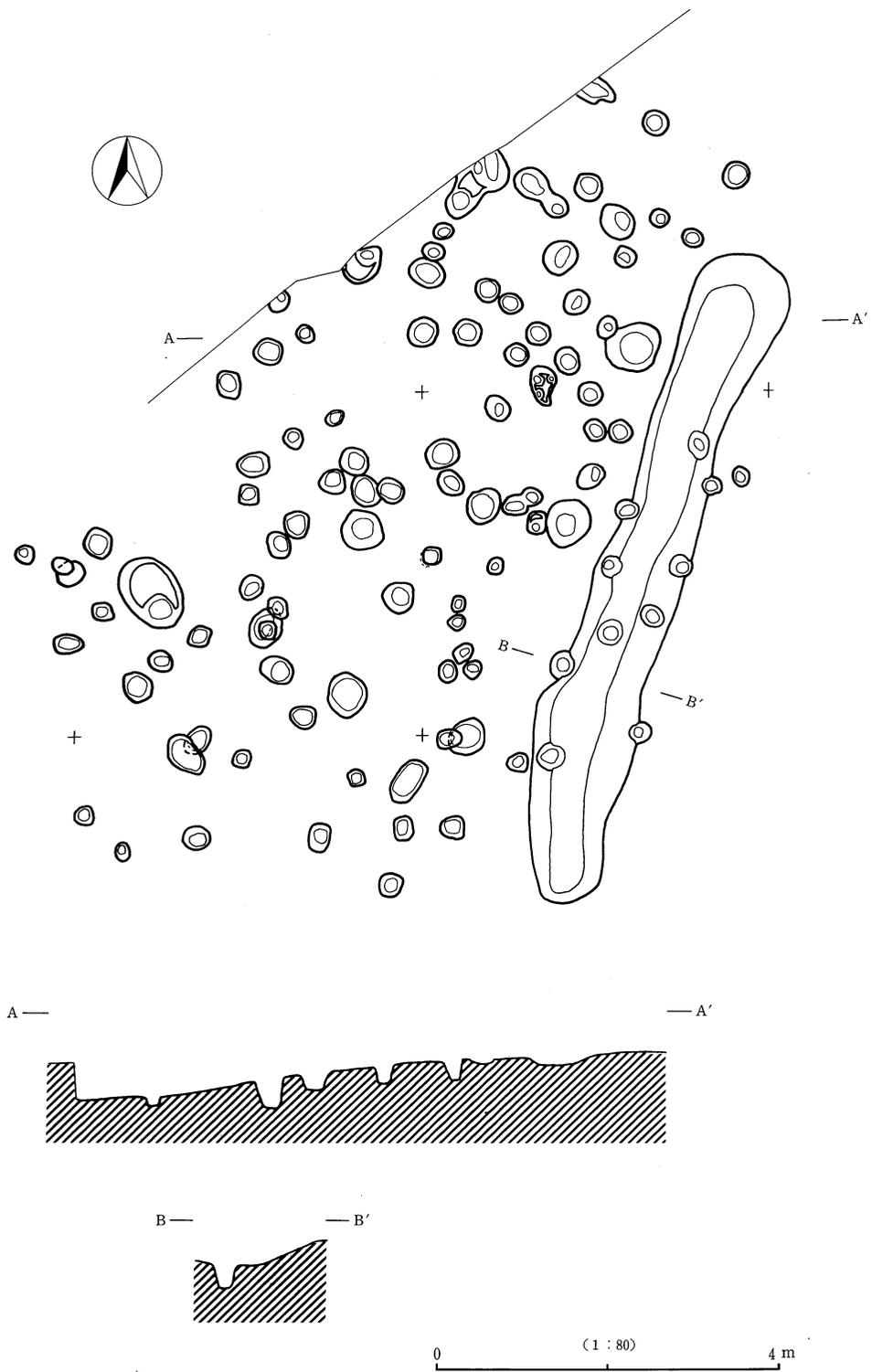
筒村遺跡は、中沢川の右岸にあって、標高720m～730mを測る。日向地区土地改良総合整備事業施行内の区域を筒村遺跡Bとし、一級河川中沢川局部河川改良事業施行内の区域を筒村遺跡Aと便宜的に呼称し、調査を実施した。したがって、遺構名称は筒村遺跡Aおよび筒村遺跡Bとも通し番号で付した。

本遺跡は北東方に伸びる立科山麓が佐久平と接する地帯にあり、付近にはやせ尾根と小さな沢筋がいくつもみられる。本遺跡は南東方から流れ出す沢水が南北に分岐するその間に形成された緩く傾斜する小台地上にある。

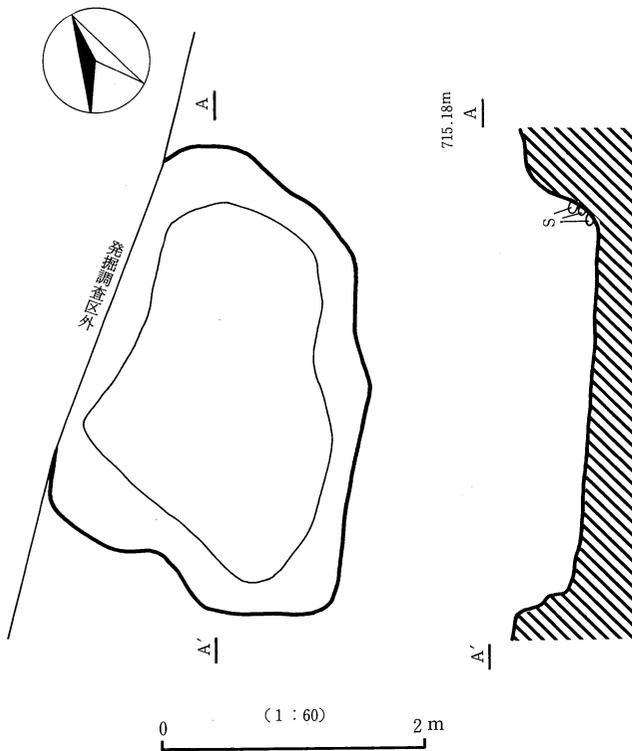
本遺跡より上流の中沢川右岸一帯にも同様な台地が展開しているが、試掘調査の結果、遺構・遺物とも検出されていない。また、本遺跡対岸の日向城跡直下の狭い台地にも試掘トレンチを入れて精査を行ったが、やはり、遺構・遺物とも検



第2図 筒村遺跡A調査全体図 (1:750)



第3图 M1号沟状遗槽·柱穴群实测图



第4図 D19号土坑実測図

出されなかった。

本遺跡の検出遺構は、溝状遺構1条土坑1基、106個の柱穴群である。筒村遺跡Bからは、平安時代住居址1棟、掘立柱建物址2棟、土坑19基と縄文時代前期終末・中期末の遺物集中地点5ヶ所が検出されている。

## 1 柱穴群およびM1号溝状遺構

調査区北西部から1条の溝と106個におよぶ柱穴群が検出された。溝は長さ8m幅1m内外深さ10前後を測る。溝底と溝壁に柱穴が10基みられたが、相互の関連は不明確である。106個の柱穴群について相互の組み合わせを試みたが現場においても机上においても積

極的に建物址として抽出できるものはなかった。柱穴の形態は、いくつか方形がみられるがほとんどが円形を呈する。平面規模は径30cmが平均的で、55cm~65cmの大きなものも数個みられる。深さは15cm~20cmが多く、35cm以上も数個ある。

遺物は柱穴群内や柱穴が掘られている黒色土層内から、縄文時代前期終末、中期末、弥生時代後期平安時代、中世の土鍋などが出土した。黒色土は筒村遺跡Bで遺物集中地点と呼んだ低地に遺物を包含した黒色土の堆積と同様のものであり、遺物集中地点6と呼んだ。

M1号溝状遺構および柱穴群は、縄文時代、弥生時代、平安時代の遺物包含層を掘りこんでいることや、土鍋など中世の遺物が出土していること、さらに日向城跡の直下にあたる位置関係からも、中世末葉の所産かと思われる。

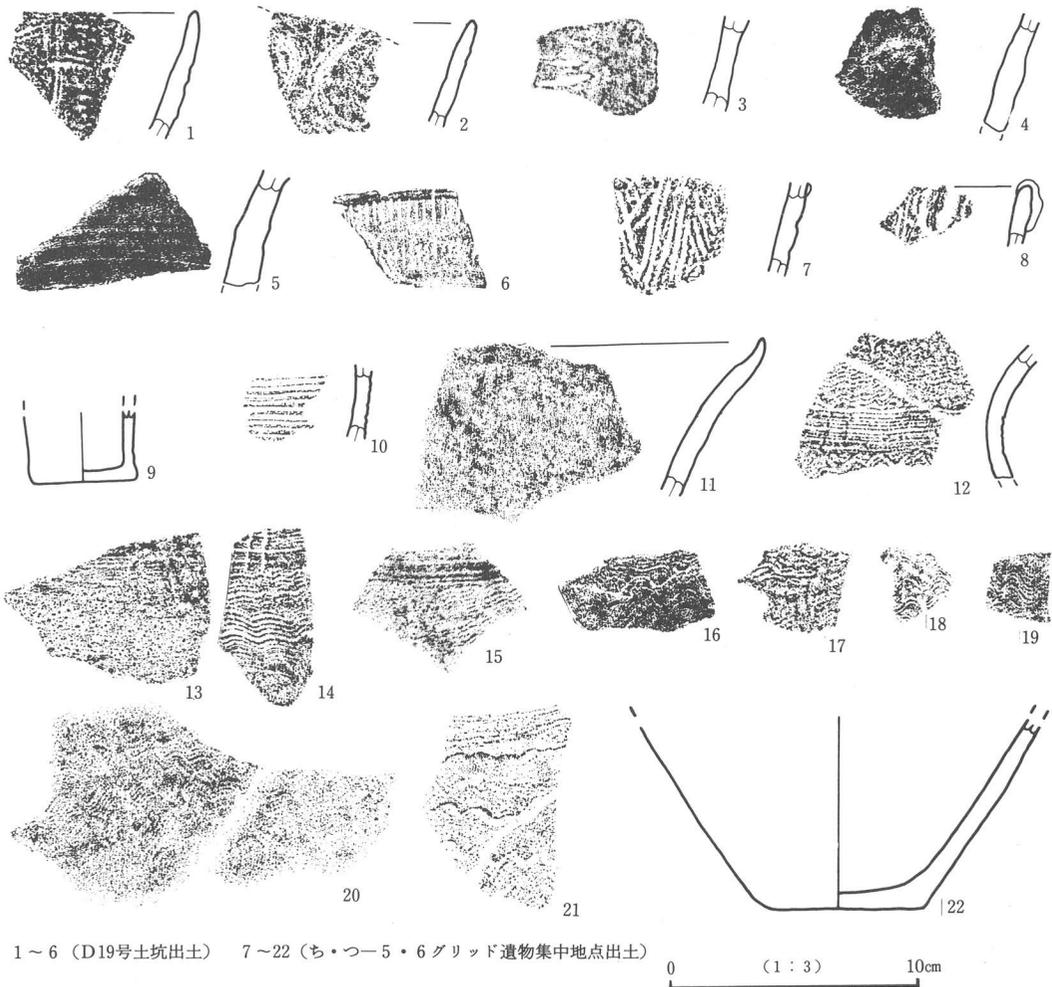
## 2 土坑

### 1) D19号土坑

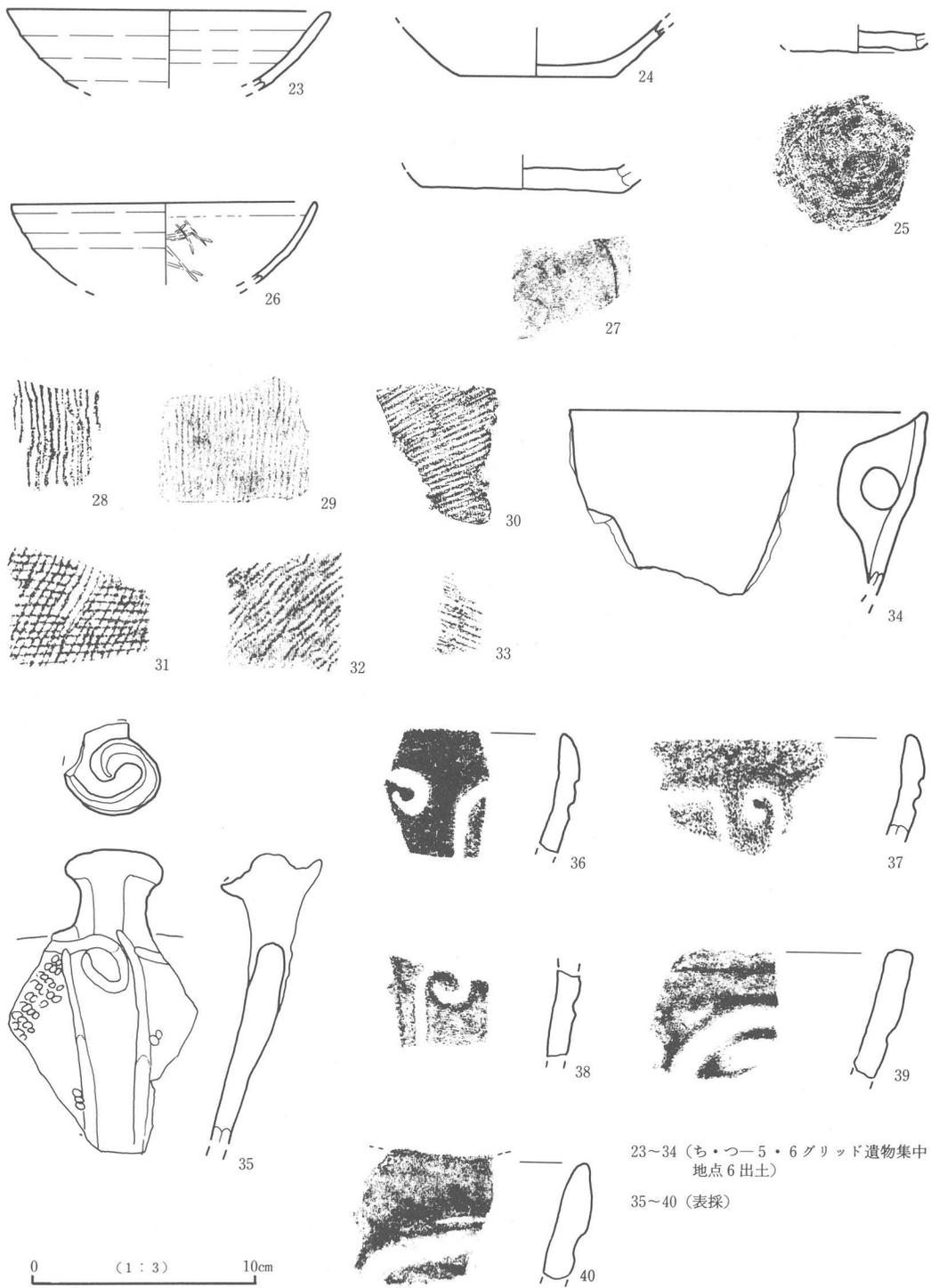
本土坑は、すー2グリッドから検出された。長軸3.6m短軸2.4m深さ0.52cmを測る。遺物は、縄文時代前期の繊維土器、平安時代須恵器甕片が出土した。

### 3 土坑・柱穴群・遺物集中地点6 出土遺物、表採遺物

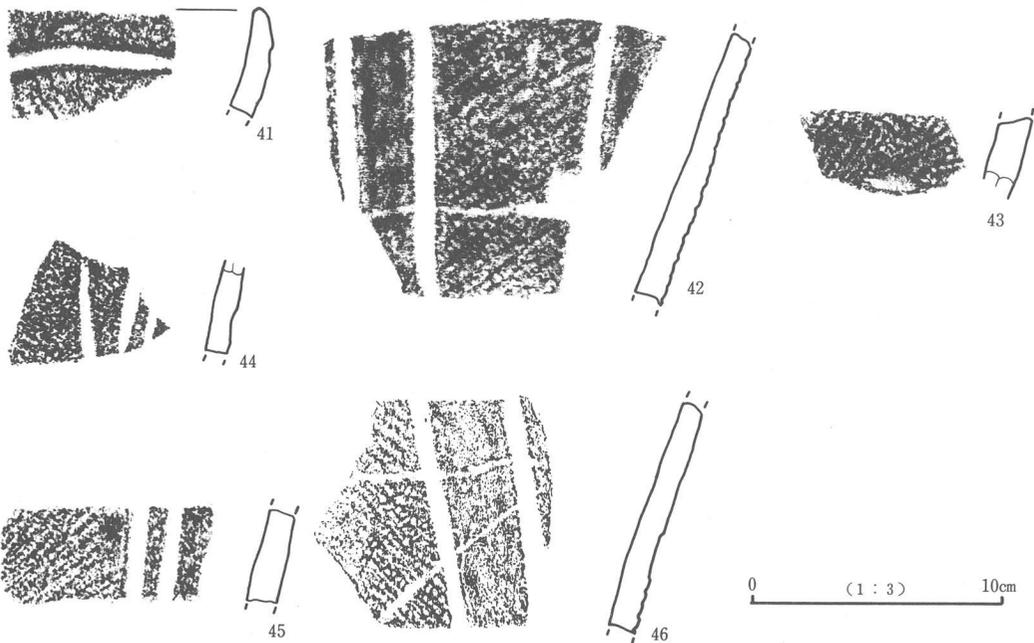
柱穴群およびその下位の黒色土層から多くの遺物が出土した。縄文時代の遺物は、中期末の土器片が主体をしめる。第5図1～4は縄文時代前期終末の繊維土器、7・8は竹管文の施されるもの、35～40は中期末の加曽利E式土器である。弥生時代後期の土器は、ち-5グリッドから集中して出土している。第5図10・13は弥生時代後期後半壺の口辺から胴上部で頸部に櫛描廉状文が施文されている。12・14～21は弥生時代後期後半甕の頸部から胴部片で、頸部に櫛描廉状文、その上下に櫛描波状文がみえる。第6図23～26・28～33は平安時代の須恵器甕・坏、土師器坏であり、24・25は回転糸切り底を持つ。27は奈良時代のヘラで調整された底部を持つ内面黒色土器であり、34は内耳土器である。



第5図 D19号土坑出土、遺物集中地点6出土土器実測図



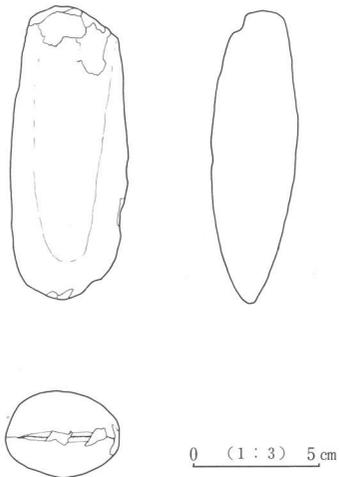
第6図 遺物集中地点6出土、表採土器実測図



第7図 表採土器実測図

### III 山法師遺跡A

中沢川の改修後の予定流路内を山法師遺跡Aとしたが、圃場整備に関わり調査した山法師遺跡III地区として調査した地点は、山法師遺跡の中で同一の地点であり、A・Bはあくまでも便宜的なものである。山法師遺跡Aからは、掘立柱建物址柱2棟が検出された。山法師遺跡Bでは2棟の掘立柱建物址が確認されている。

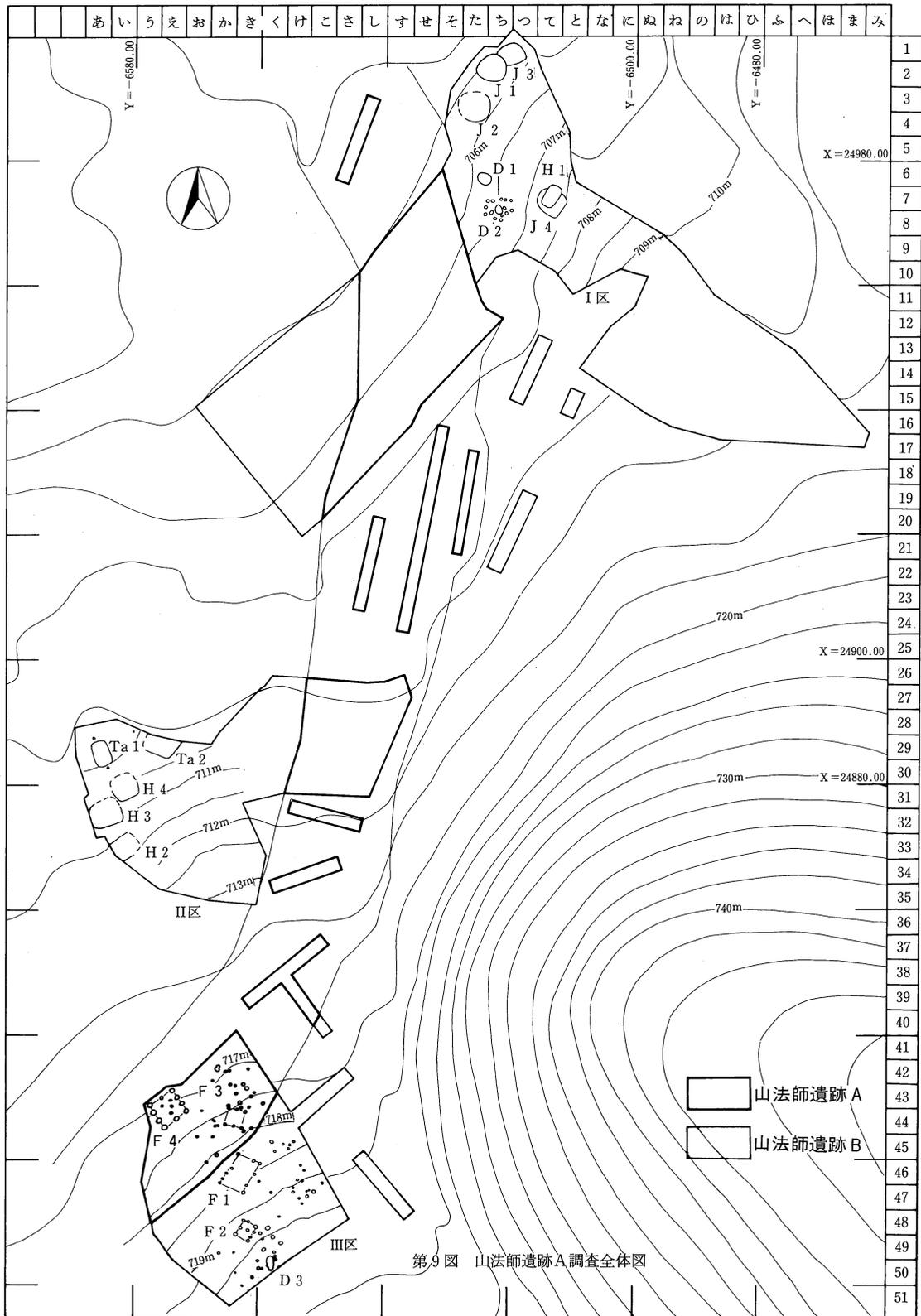


第8図 筒村遺跡A表採

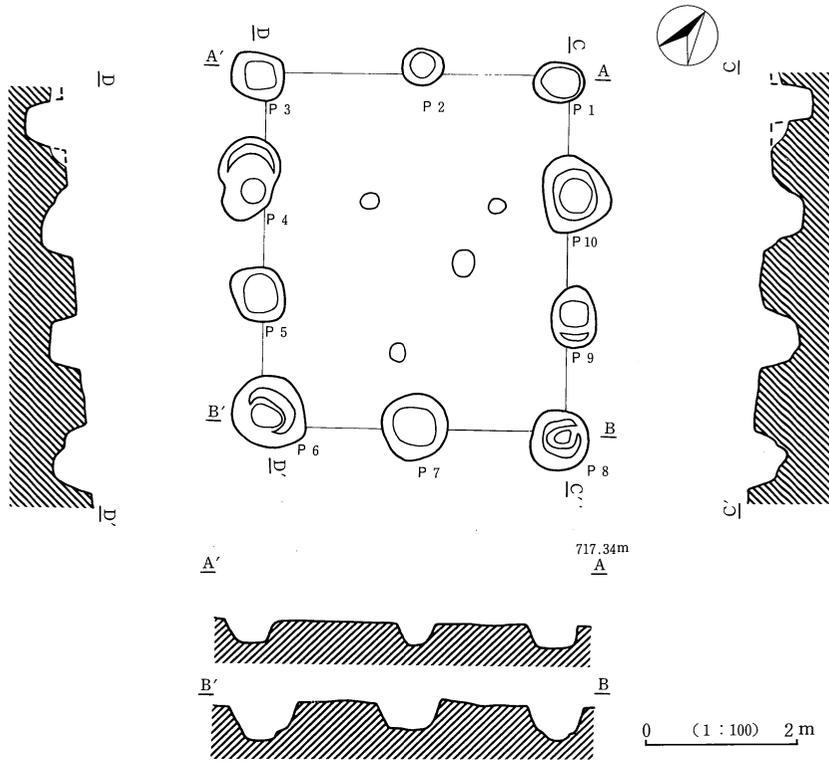
#### 1 掘立柱建物址

##### 1) F3号掘立柱建物址

本址は、う・え-43・44グリッド~検出された。建物の平面形態は桁行2間・梁間1間で柱の配置は側柱式である。長軸方位は、N-15°-Eを指す。平面規模は桁行2.7m・梁間2.7mで、各柱間のばらつきは小さい。各柱穴は円形で、直径20~48cmを測る。



第9図 山法師遺跡A調査全体図

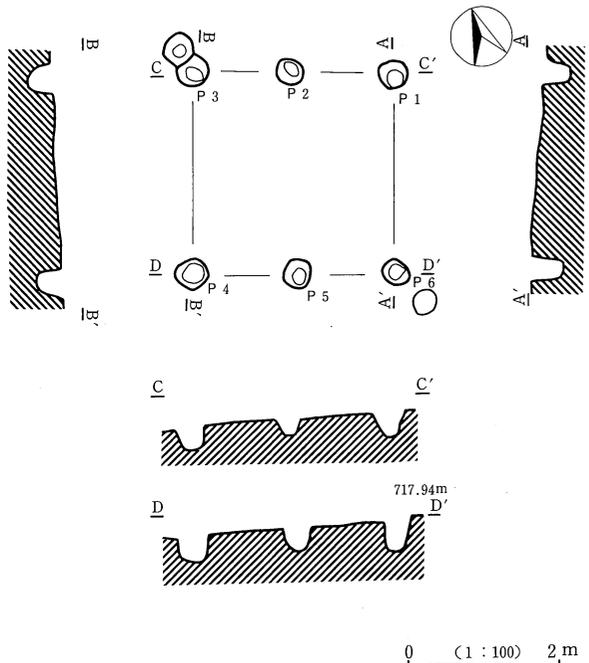


第10図 F 4号掘立柱建物址実測図

## 2) F 4号掘立柱建物址

本址は、か-44グリッド~検出された。建物の平面形態は桁行3間・梁間2間で、柱の配置は側柱式である。長軸の方位はN-36°-Wを指す。平面規模は桁行4.8m梁間4.2mで、各柱間のばらつきは少ない。柱穴の平面形態は円形を基本とする。直径50~100cm・深さ30~71cmを測り、P 4・P 6・P 8・P 9・P 10は柱根部が一段低い。

2棟の掘立柱建物址とも出土遺物がなく帰属時期は明確でない。



第11図 F 3号掘立柱建物址実測図

## 山法師遺跡の航空写真

(西方上空から)

手前の家並みは日向の集落で、写真下端に見えるのは左（北方）へ流下する中沢川である。中沢川はたびたび氾濫し、今回、土地改良総合整備事業に並行して河川改修事業の用地確保が行われる。

山法師遺跡Bの第1調査区は、写真左側の北西方へ開ける小さな台地上にあり、北東側に小さな流れがある。縄文時代中期後葉の住居3棟および後期前半の1棟が確認された。また、平安時代の住居1棟も検出された。

写真中央は山法師遺跡Bの第2調査区で、その右側に第3調査区と山法師遺跡Aがみえる。

第2調査区からは平安時代の住居3棟、中世の竪穴状遺構2などが第3調査区及び山法師遺跡Aからは、掘立柱建物址や柱穴群が調査された。



## 山法師遺跡の航空写真

(北方上空から)

写真右側中央にせりだしているのは山城の日向城址である。中沢川は写真上方から流下している。

集落が途切れた左側の圃場整備済みの一帯が、1991年度に発掘調査された筒村遺跡A・Bである。

中沢川の改修予定用地が集落の東側を巻くように茶色の帯状に見える。これが、山法師遺跡A、筒村遺跡Aとした範囲である。

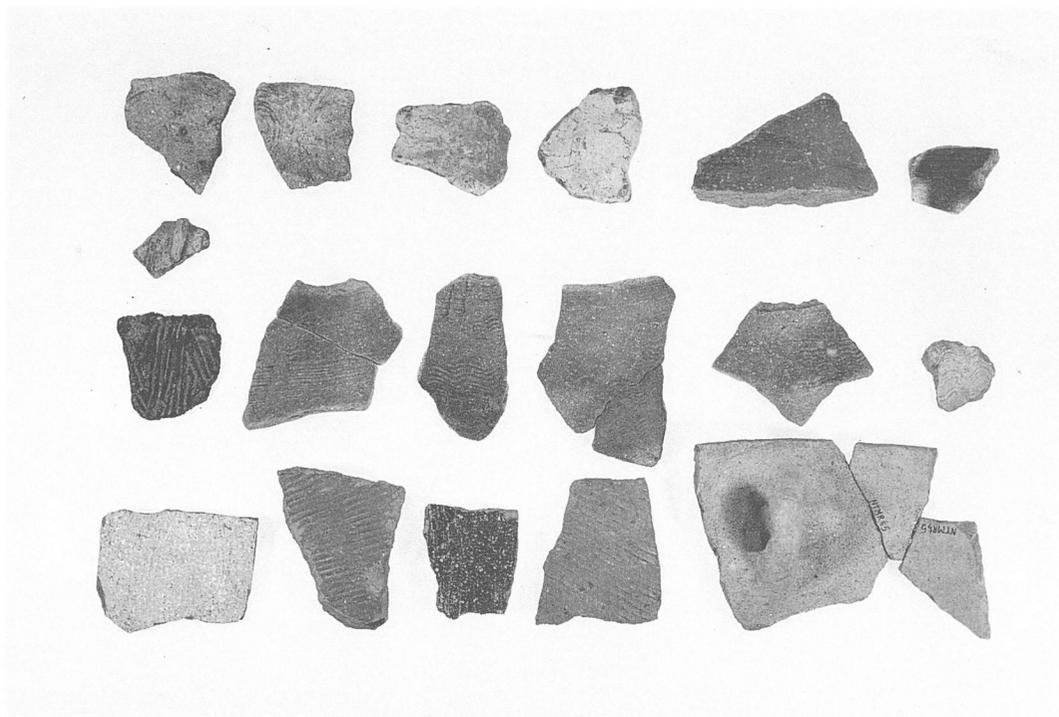




1 筒村遺跡A M1号溝状遺構・柱穴群（東方から）



2 筒村遺跡A 調査スナップ（南東から）



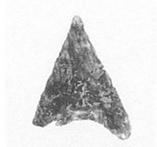
1 筒村遺跡A D19号土坑出土、遺物集中地点6出土土器



2 筒村遺跡A 表採土器



1 筒村遺跡A  
表採磨製石斧  
(8 図)



2 筒村遺跡A  
遺物集中地点6  
出土石鏃  
(縮尺約1/1)



3 筒村遺跡A 遺物集中地点6出土 (5 図22)



4 筒村遺跡A 遺物集中地点6出土 (6 図24)



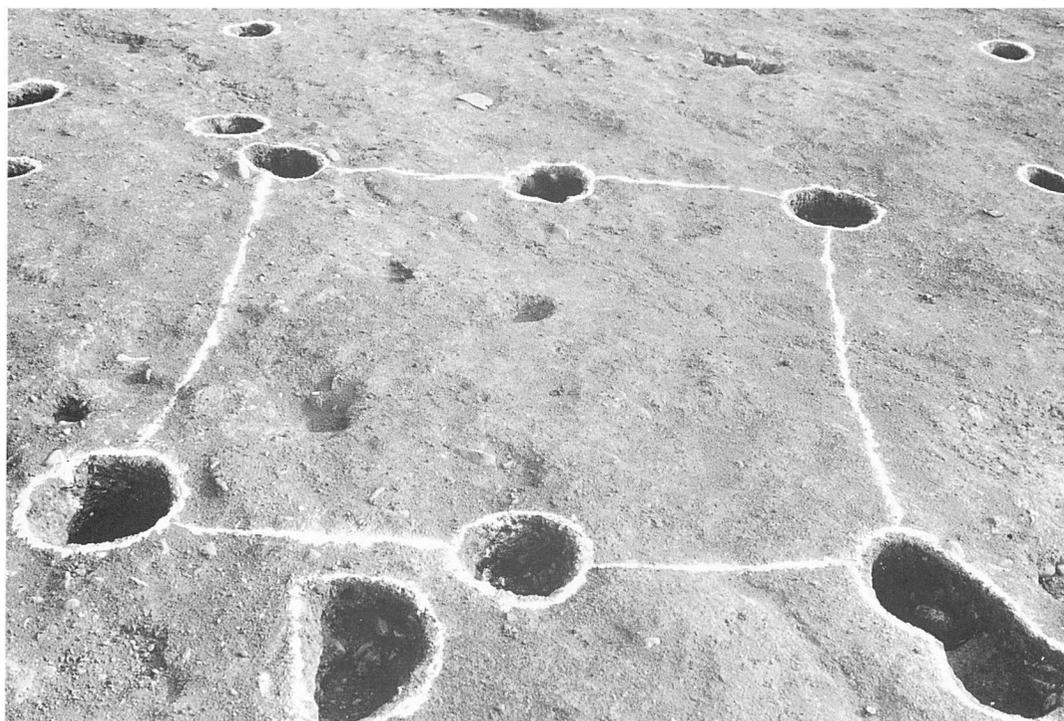
5 筒村遺跡A 遺物集中地点6出土 (5 図9)



6 山法師遺跡遠景 (遠景、北方より)



1 山法師遺跡A F4号掘立柱建物址(北西方から)



2 山法師遺跡A F3号掘立柱建物址(北方から)



1 山法師遺跡A、山法師遺跡BⅢ地区近景（東方から）



2 筒村遺跡近景（西方から）、手前に中沢川



山法師遺跡A、山法師遺跡B I 地区より日向城を眺む  
(北方から)



筒村遺跡Aからみる浅間山(南方から)



佐久市埋蔵文化財調査報告書	第1集	『金井城跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第2集	『市内遺跡発掘調査報告書1990』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第3集	『石附窯址群III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第4集	『大ふけ遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第5集	『立科F遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第6集	『上曾根遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第7集	『三貫畑遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第8集	『瀧の下遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第9集	『国道141号線関係遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第10集	『聖原遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第11集	『赤座垣外遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第12集	『若宮遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第13集	『上高山遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第14集	『栗毛坂遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第15集	『野馬久保遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第16集	『石並城跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第17集	『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1月～3月)
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第18集	『西曾根遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第19集	『上芝宮遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第20集	『下聖端遺跡III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第21集	『金井城跡III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第22集	『市内遺跡発掘調査報告書1991』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第23集	『南上中原・南下中原遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第24集	『上聖端遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第25集	『上久保田向IV』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第26集	『藤塚古墳群・藤塚II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第27集	『上久保田向III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第28集	『曾根新城V』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第29集	『山法師遺跡B・筒村遺跡B』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第30集	『市内遺跡発掘調査報告書1992』

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書第31集

筒村遺跡A・山法師遺跡A発掘調査報告書

1994年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社佐久印刷所

---